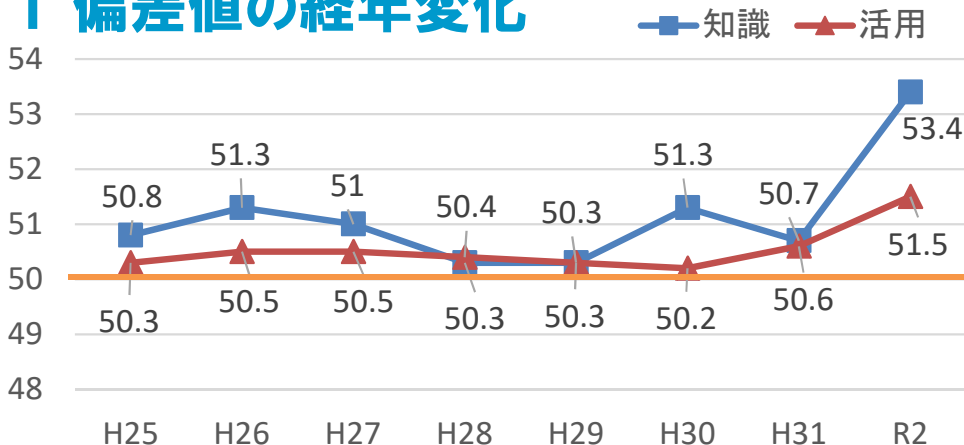


結果のポイント

1 偏差値の経年変化



○知識・活用ともに偏差値50を上回り、これまでで一番高い数値である。

2 領域別の結果

領域	県正答率	全国正答率	目標値
数と式	69.1	60.9	66.4
図形	53.8	49.2	55.0
関数	54.0	45.3	48.3
資料の活用	55.7	49.2	55.0

○全ての領域で全国正答率を上回っており、全国平均以上の学力が定着している。

▲「図形」領域の正答率が目標値を下回った。

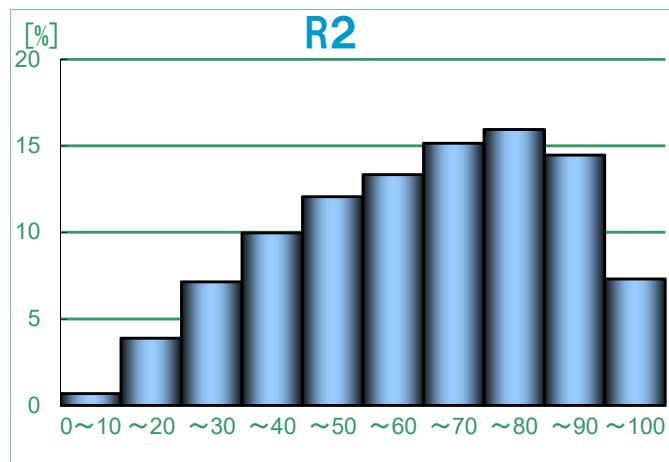
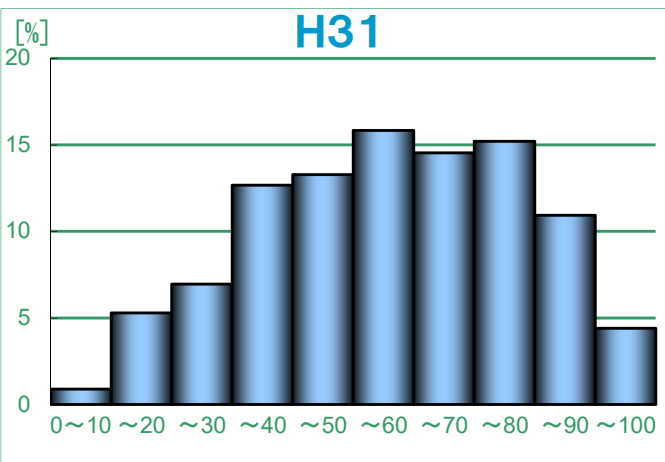
3 観点別の結果

観点	県正答率	全国正答率	目標値
数学への関心・意欲・態度	49.5	44.7	50.5
数学的な見方や考え方	47.5	43.2	48.5
数学的な技能	65.9	57.5	62.1
数量や図形などについての知識・理解	58.1	50.8	55.9

○全ての観点で全国正答率を上回っている。

▲「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」の観点で目標値を下回った。

4 正答率度数分布の変化



○低学力層(正答率30%以下)の児童の割合が昨年度同様少ない。

○昨年度に比べ正答率81~100%の層の割合が増えている。

つまづきが見られた問題

大問16(2)【参考値】正答率13.4%・無解答率21.4%
【ねらい】示された模様が図形を回転移動させてつくったものであることを読み取り、移動の方法を説明することができる。

【正答例】

点Oを回転の中心として時計回りに 60° だけ回転移動させた図形をかく。

【正答の条件】

- | |
|-----------------------------|
| (a)「点Oを回転の中心として」などの回転の中心の位置 |
| (b)「時計回りに」などの回転の方向 |
| (c)「 60° 」などの回転角の大きさ |

【誤答としての予想】(c)に関する記述がなく、(a)(b)を記述している。

点Oを回転の中心として回転移動させた図形をかく

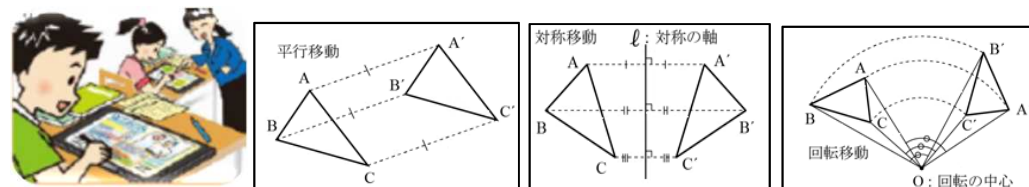
◆ 指導のポイント

- コンピュータ等を利用した観察、操作や実験を取り入れ、図形の移動を視覚的に理解できるように指導する。
- 定規やコンパス等を使って、図形を「平行移動・対称移動・回転移動」することができるように指導する。
- 二つの図形の間を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明できるように指導する。

★ 指導の具体例

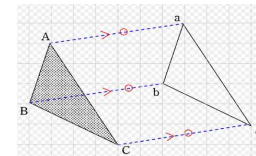
観察、操作等を取り入れ図形の移動を視覚的に理解できる活動(例)

○コンピュータ等を利用して平面における図形の移動について理解する。



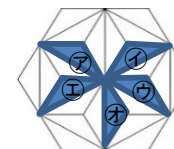
基本的な作図を行い、作図の方法や意味の理解を深める活動(例)

○定規やコンパス等を用いて、「平行移動・対称移動・回転移動」の作図をする。
作図の意味を深めるために、作図の方法や結果を図形の移動に着目して確かめる。



図形の移動について考察し、数学的な表現を用いて説明する活動(例)

○合同な図形の敷き詰め模様を観察して、移動前と移動後の二つの図形が、どのような移動によって重なるかを考察し、数学的な表現を用いて説明する。



問題: ㊦を1回の移動で㊧～㊩に重ね合わせるにはそれぞれどのような移動をすればよいか。

問題: ㊦は㊦を2回の移動で重ね合わせたものです。どのような移動をすればよいか。

全国学力・学習状況調査問題等を利用して活用力を高める授業(例)

- 全国学力・学習状況調査(H29 B1)(右図)を扱う。「四角形ABCDの模様が、1回の回転移動で四角形GBEFの模様と重なるためには、どのような回転移動をしたのか説明しよう」等の問題を提示して、その理由を説明させる。
- 問題データベースの全国学調類似問題も利用する。

